

# 宮城県の児童・生徒とその保護者を対象とした ライフスタイル調査の結果について（要約版）

調査により、各項目について下記の傾向及び結果が判明しました。

## 1 う歯（虫歯）に関することについて

- ・約95%が毎日歯を磨いており、そのほとんどが1日2回以上歯を磨いている。
- ・歯を磨く時間が1分未満である児童・生徒が8%いる。
- ・口腔衛生行動は地域差が大きく、気仙沼地域の小・中学生は昼食後の歯磨きがほぼ100%である。
- ・食後の間食、特に“就寝1時間前”がう歯（虫歯）のリスクになり得る。
- ・運動時や習い事における飲食（スポーツドリンクなど）がむし歯リスクに関連している可能性がある。

## 2 肥満に関することについて

- ・令和2年度学校保健統計調査結果と比較し、高い値を示し、体格が増大している可能性が示唆された。全国平均と比べても、ともに高い値を示しており、肥満児の割合も大きい可能性がある。
- ・「食事を残すこと」で肥満のリスクは低く、「食事は残さず食べる」と肥満のリスクは高くなる。
- ・運動と肥満との関連については、子が運動を好きであることで肥満のリスクが低い。
- ・両親の肥満は子の肥満のリスクとなっていた。

## 3 登校状況について

- ・令和3年度において不登校傾向（15日以上欠席）の児童・生徒は3.4%おり、特に、前年度不登校であった場合では8.6%と高い割合となり、この児童・生徒達は不登校になるリスクが高い。
- ・「適切な睡眠時間が確保されていない」や「毎日歯磨きを行わない」児童・生徒で体調不良や精神的な不調を訴える割合が高く、背景要因として生活習慣の乱れが体調不良や精神的な不調などに影響を及ぼしている可能性がある。
- ・令和3年度に不登校傾向にある群では、環境要因として「いじめを除く児童・生徒との人間関係」の割合が高く、対人関係での悩みがストレスとなり、そのことで身体症状を来すようになっている可能性が考えられる。

## 4 新型コロナウイルス感染症拡大による休校等の影響について

- ・再度の休校の割合、オンライン授業の実施割合ともに、学年、地域により明確な差がみられた。
- ・接触回数の減少が必ずしも人間関係のストレスにはつながらない可能性が考えられる。しかし一方で、思春期の女子においてストレスを感じている割合が高く、特に高等学校1年生の女子生徒については、6.4%が非常にストレスを感じており、注意が必要である。
- ・イベントがキャンセルされたことをつらく感じる程度が大きいほど人間関係の変化に対するストレスを感じている割合も高い。